令和２年３月 19 日

つくば市長
　五十嵐　立青　様

つくば市議会議長　　神　谷　大　蔵

今後のつくば中心市街地まちづくりについての提言

1. はじめに

今後の中心市街地のまちづくりについて、つくば市議会として詳細な調査と議論が必要であると考え、つくば市全域の活力の創出及び魅力向上を含めたつくば中心市街地の魅力あるまちづくりのための調査研究を目的とした議員 27 名からなる「つくば中心市街地まちづくり調査特別委員会」を、平成 31 年２月 18 日に全会一致で設置した。

調査特別委員会は、中心市街地の様々な現状把握や現地調査、有識者による講演や議員勉強会・意見交換会を行い、令和元年 12 月 20 日に、その途中経過を取りまとめた内容を、今後のつくば中心市街地まちづくりについての中間報告として、つくば市長に提言を行った。

提言後、令和２年１月 24 日に、つくば中心市街地まちづくり戦略（素案）について、つくば市から調査特別委員会に対して説明があり、各委員から素案についての質疑を行った。

本報告は、そのことを受け、つくば市議会各会派から素案について出された意見を調査特別委員会で取りまとめ、今後のつくば中心市街地まちづくりについての提言とするものである。

2. つくば中心市街地まちづくり戦略　素案について

調査特別委員会としては、つくば市から説明のあったつくば中心市街地まちづくり戦略（素案）について、令和元年 12 月 20 日に提言した中間報告の内容が反映されていることから、全体的には理解し、了解するものである。

しかしながら、今後のつくば中心市街地の魅力あるまちづくりのためには、さらなる様々な取組が必要なことから、調査特別委員会として以下４点の内容を意見として提言する。

(1) 方針４点の優先順位について検討が必要。市民が望む中心市街地の観点から、サードプレイス的内容を科学技術よりも優先すべきではないか。

素案では、中心市街地におけるまちづくりの基本方針として、以下の４点が示されている。

・方針１　まちづくりの課題を科学技術で解決する世界のモデルとなるまちづくり
・方針２　つくばにしかない街並みや体験を提供するまちづくり
・方針３　イノベーションを誘発することで新たなビジネスが生まれるまちづくり
・方針４　つくば駅周辺だけでなく、つくば市全体の活力が生み出されるまちづくり

調査特別委員会では、これまで「中心市街地に行けば、常に何かやっている・集いたくなるサードプレイスがあり、常に楽しめる場所にする」の点について多くの議論を行った。その結果として今後の中心市街地が目指すべき方向・目標として**「歩いてほっとする場所のある誰にでもやさしいまちなか」**の形成を掲げた。

そのために、魅力あるイベントの開催、天候に左右されずに、イベントを行える環境づくりが必要であり、施設や場所等の使用に関する規則、許可、禁止事項等のルールに、より柔軟性を持たせることが必要であるとの考えを示した。

そして、最終的には、中心市街地の魅力を向上させ、中心部と周辺部の連携やつながりを更に強くして、つくば市全域の活力の創出を目指すべきであると提言した。

以上のような経緯から、４つの方針の最初に「科学技術」に関することが掲げられているのは、調査特別委員会としては違和感がある。方針は骨格であり、市民に与えるイメージが大きい。科学技術は目的達成の手段であり、市民が求める中心市街地という観点から、方針の優先順位について検討願いたい。

具体的には、**「方針4　つくば駅周辺だけでなく、つくば市全体の活力が生み出されるまちづくり」**の**重点戦略4-1　つくば駅周辺の集客を市内周辺部の賑わいにつなぐ**、**重点戦略4-2　つくば駅周辺の都市機能集積による市民サービスの向上**という内容が、市民の中心市街地に求めていた内容ではないかと考える。

そのため、素案の４つの方針の順番を、最初に方針４、方針２と順にきて、その次に科学技術という順番に変更願いたい。

(2) **「方針3 イノベーションを誘発することで新たなビジネスが生まれるまちづくり」**のつくばのまちの特徴・資源をいかした視点の記述の中で、「約 150 の研究機関が持つ最先端の研究・事業シーズ、約２万人の研究従事者など、研究学園都市ならではの集積や国内外からのアクセス性をいかし」とあるが、現状では、海外とのアクセスが弱いと考える。

上記の研究学園都市の集積効果をさらに上げるためにも、この点についてアクセス向上を求めたい。

(3) **「プロジェクト3　イノベーション拠点の創出」**、**「プロジェクト７　産業振興センターを拠点としたスタートアップ推進」**、**「プロジェクト9　スマートシティの推進」**について、その場所や方向性・取組内容について、また、書かれている言葉などに似ている部分もあり、市民が混同するところもある。

さらに、９のプロジェクトのうち、３つが科学技術関連であり、全体に占める割合が多い感じがする。もう少し、内容を整理して、一括にまとめるなどの検討を願いたい。

(4) **「プロジェクト6　エリアマネジメント団体設立による官民連携のまちづくりの推進」**については中間報告で、「センター地区活性化協議会のこれまでの取組等を検証しながら、エリアマネジメントを推進していく機能・組織が今後は必要である」と提言した。

そのため、まず、これまでの商業施設（MOG、Q't、旧クレオ、BiVi）と、公共施設、ホテル等エリアを構成する事業者と行政の連携について、これまでの取組等を検証し、課題を整理していく必要があると考える。

その上で、互いのつながりを強くして、官民連携の事業推進において、より情報共有を図るなどして、互いの取組の足並みをそろえていく必要性がある。その場づくりと連携した取組を強く求めたい。

3. おわりに

つくば市の顔である中心市街地の魅力を向上させ、つくば市全域の活力の創出を目指すためには、「つくば中心市街地まちづくりヴィジョン」を更に具現化する時系列的な戦略計画を作成することが、まず必要である。

今回、説明のあった「つくば中心市街地まちづくり戦略」素案は、まさにその位置づけの戦略計画であると考えるが、今後の戦略計画の具体的内容に関する策定や推進においては、適時、調査特別委員会への説明と意見交換の機会が持たれるように願いたい。

最後に、具体的な取組の推進に当たっては、市民、中心市街地居住者、各施設の現在の利用者と今後利用されるであろう市民や市民団体、サークル、そして中高生などから、取組内容や施設内容に対するニーズをしっかりと聞き取った上で進めてほしいことを調査特別委員会として特に要望する。

以　上